

作物名：いちご

病害虫名：アザミウマ類

ヒラズハナアザミウマ（学名：*Frankliniella intonsa*）

ミカンキイロアザミウマ（学名：*Frankliniella occidentalis*）

1 被害の特徴

- イチゴには、ヒラズハナアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ等が寄生する。
- 果実被害は幼果から成熟期に寄生する幼虫によって起こり、果実は瘦果（種子）の周辺を残して褐変する。
- 多発すると果実全体が食害され、小さく固い褐色の果実となる。

2 生態

- 体長が1～2mm程度と小さく、多数の植物に寄生する。
- ヒラズハナアザミウマの場合、1世代に要する期間は25℃で約10日、ミカンキイロアザミウマの場合25℃で約12日である。

3 発生しやすい条件

- 高温・乾燥条件下で多発する傾向がある。
- 施設への飛込が容易になる4月以降に寄生が増加する。
- ほ場内もしくはほ場周辺に雑草が多いと、そこが発生源となることがある。

4 防除方法

- ルーペで観察する、又は花を白い紙の上で軽く叩くか、軽く息を吹きかけるなどを行い、花への寄生を早期に見つけ対策を行う。特に3月以降は、温度の上昇に伴って急激に密度が増加するため注意する。
- 定植前および栽培期間中は、ほ場内およびほ場周辺の雑草を除草し、発生源をなくす。
- 低密度時や発生初期には IGR 剤（脱皮阻害剤。IRAC：15）やククメリスカブリダニ、リモニカスカブリダニ等の天敵製剤の活用も検討する。
- 多発時は成虫に効果のある殺虫剤を5～7日間隔で連続散布を行う。
- 施設栽培では栽培終了後、施設を閉め切って蒸し込みを行う。

5 出典

（1）参考文献

- 農業総覧 原色病害虫診断防除編 2-②（農文協）
- 農業総覧 病害虫防除・資材編 2（農文協）
- 農作物のアザミウマ（全農教）

（2）写真

- 宮城県病害虫防除所撮影



写真1 花に寄生するアザミウマ類



写真2 被害を受けた果実